通信課程使い「地域留学」

キャンパスに通う必要がない通信教育課程を活用し、地方で課題解決のプロセスを学ぶ大学もある。

福島県沿岸部「浜通り」に位置する南相馬市小高区。若手起業家が集う滞在可能な共用オフィス「小高パイオニアヴィレッジ」で、新潟産業大1年の倉本留玖さん(18)が、2週間後に迫るランチ会のメニューを、オフィス責任者の野口福太郎さん(26)と打ち合わせていた。食事は30人分。倉本さんは「ラーメンなら大人数でも仕込みが簡単。地元のお店にスープを監修してもらえれば、県外から来た人も喜ぶ」と提案した。

愛知県出身の倉本さんは今年4月、新潟産業大が2021年に開設した、経済学部経済経営学科の「地域イノベーターコース」に入学した。このコースは通信教育課程で、学士の資格取得に必要な授業や課題提出はオンラインで行う。最大の特徴は、全国10道府県の地方都市から「地域留学」先を選び、現地に移り住んで自分のやりたいことを企画・実行するプロジェクト型学習だ。

倉本さんのある1週間

	月	火	水	木	金	土	日
午前	さとのば大に活動報告	さとのば大のオンライン講座			新潟産業大の映像授業	イベント運営	
午後	自由時間	新潟産業大の映像授業	図書館で読書	プロジェクト準備で料理の試作	イベント設営の手伝い		
夜	シェアハウスで自炊	地元住民らとフットサル	新潟産業大の映像授業		シェアハウスの同居人と外食		

地域コーディネーターの野口さん(右)と打ち合わせをする倉本さん(10月30日、福島県南相馬市で)

倉本さんが留学先に選んだ小高区は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故による避難指示が7年前に解除された地域だ。人口は6400人(9月末現在)と震災前から半減し、高齢化率は50%に近い。オフィスは、こうした地域課題から事業を生み出すことを目的に19年に開設された。現在は、地域おこしを担う起業家らの活動拠点となっている。

倉本さんはオフィス利用者に故郷の料理「みそカツ」を振る舞ったり、好きなアニメ作品の上映会を企画したりして、地域に溶け込むことから始めている。「まだ自分のやりたいことは何かを考えている最中だが、ここは震災復興に尽力する人たちが集まっていて勉強になる」と話す。

野口さんは、現地で倉本さんの学習を支援する「地域コーディネーター」も務めている。「若者はやりたいことに自由に挑戦してほしい。地域全体も若返り、全世代が住みやすい町になる」と期待する。

インターネットを活用した地方でのプロジェクト型学習に対する期待は高い。

国内では、25年4月に開学予定の通信制大学「ZEN大学」が「地域・企業連携プログラム」を計画しており、学生は地方に滞在して課題解決に取り組みながら、オンラインで授業を受ける。

海外では4年間で世界の7都市を回る米ミネルバ大学が、プロジェクト型学習で国際的な注目を集めている。

新潟産業大と提携し、地域留学の運営を担う「さとのば大学」(運営会社アスノオト)の担当者は「地方には様々な課題や価値観がある。自分事として向き合うことで実践的な学びが得られる。地域も活性化する」と話している。

読売新聞社 無断転載禁止 2023/11/27